



全国学テから「計算問題」が無くなった ～学力観の見直しを～

全国学テ学習状況調査（全国学テ）が4月17日に行われた。算数は、A問題とB問題の2つの調査問題があり（今年度まで）、両方の調査問題を全ての児童生徒が解かなければならない。A問題は「身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容」や「実生活において不可欠で常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能」について調査するものであり、B問題は活用する力を調査するものである。今年度はこのA問題からいわゆる「計算問題」がなくなってしまった。全国学テは全国の児童生徒の実態を把握するだけでなく、授業改善についての道しるべとなることも意図されている。つまり、児童生徒が身につけるべき内容や知識・技能として「計算問題」は重要ではないというメッセージが届けられたと考えられる。そして「計算問題」をなくしたことで、これからの時代を生き抜いていくための資質・能力がどのようなものであるのかを調査問題をとおして訴えているとも考えられる。

これからの社会は答えが多様であり、一人一人が自律し他者と協働して生きていかなければならないと指摘されている。そのような社会にあっては、誰かに与えられた問題を、問題を与えた人が求めているとおりに機械的に答えているだけでは対応ができない。つまり、自分で問題を見つけ、それに協働的に粘り強く対処していく主体性が必要とされるのである。翻って今の学校教育の状況はどうであろうか。教師の様々な思いはあるにせよ、結果的には、教師に与えられた問題を児童生徒が教師に求められているとおりに答える授業を日々行っていないだろうか。これは主体性の育成とは全く逆の方向と言える。文脈もなくただ羅列された式についてその解答を求める「計算問題」がA問題からなくなったことをきっかけに、是非、教師一人一人が各自の学力観を見直してほしいと思う。

児童生徒に「主体的であれ」と授業で訴えるためには、教師自身が主体的であることが求められる。本学教職大学院は、一人一人教育についての問題を自分で見つけ、その解決に向けて自律して他者と協働的に粘り強く対応していく資質・能力の育成を目指している。この目的を達成するために授業や実習での学びが設定されている。院生は教職大学院での日々の学びを無駄にせず、主体的に行動する教師として自己を確立させてほしい。

（専攻長 中野博之）



専攻長 中野博之

青森県内の各学校の校内研修会や各種団体の研修会等で 教職大学院の教員を活用しませんか（無料）



昨年度の創刊号（2017.6.9発行）でもお知らせしましたが、青森県内の各学校（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等）の校内研や各種団体（各地区校長会、教頭会、中堅教員研修会等）の研修会に教職大学院の教員の派遣（無料）が可能です。学習指導や学力向上、生徒指導、安全教育、健康教育等の様々な課題において、講師等でお悩みの時に教職大学院の教員を活用してみませんか？ **ただし、火曜日と木曜日をお願いします。** ミドルリーダー養成コースの院生の実習も兼ねて担当教員が院生とともに伺います。

*連絡先 弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻（教職大学院）
TEL 0172-39-3412 担当教員 小寺弘幸
（メールアドレス h-kodera@hirosaki-u.ac.jp）

今年度の教職大学院教員の紹介



副専攻長 総務部会長 実務家教員 瀧本 壽史

道元は「時は飛去するものならず」、そして「今を切に生きる」と言う。時は飛び去るもの、過ぎ去るものではない。過去なしの現代というものはありませんのであり、したがってまた消え去る過去というものもない。人生は未来にあるのではない。人生は、今この一瞬をひたむきに生きるという、切に生きた過去の積み重ね。したがって未来もまた、今を切に生きることによって規定され、変わっていく。「春風や 鬪志いだきて 丘に立つ」(高浜虚子)。2年目ではあるが実質1年目。丘に立った初心を忘れず、志をもって院生の皆さんと共に今を努力していきたいと思っています。



副専攻長 実習部会長 実務家教員 三戸 延聖

教職大学院の特徴の一つとして実習の形態があげられます。ストマス(学部卒)の協力校でのフィールド実習は週1×2年間、集中実習もあります。ミドル(現職)は附属校、県及び弘前市の教育関連施設、若手教員へのチュートリアルを目的にしたメンター実習、校内研修への参画など多様な場面による展開があります。2年目は勤務校に戻っての実習となります。各協力校の先生方、教育行政の方々におかれましては、ご指導ご支援に改めて感謝申し上げます。院生に実習から学んだことを理論に照らし真摯に省察させ、全国の教職大学院とのネットワークを活用しながら、本県の教育に還元することが私たち教員の使命だと思っています。どうぞよろしくお願いします。



教務部会長 研究者教員 上野 秀人

学校の先生が1年間に接する児童生徒は、何人いるのだろうか。その子らはその先生に何を期待しているのだろうか。教育に携わるには何ができないのか。また、どんな考え方ができないのか。そんなことを考え続けながら院生と学んでいきたいと思っています。そして、教職大学院では大小一つ一つの課題や問いに協働しながら解決していこうとする姿が見られます。一人ではできないことを「こうやって解決に近づいているのかな」と感じられるところがいいところです。今年度も院生とともに精一杯学び、共に高められていくよう努力したいと考えています。どうぞよろしくお願いします。



入試フォローアップ部会長 研究者教員 小林 央美

教職大学院が2年目を迎えました。昨年度担当した健康教育や危機管理、養護実践に関する授業では、「判例」や「研究的に分析した事例」を切り口に授業展開をしてきました。これらの内容は教員免許取得の必修科目ではないため、学部時代にはあまり学ぶことがなかったようで、「教材との新鮮な出会い」をしたときの院生の方々の表情が、学びの欲求を感じさせる素敵なものでした。事例などをもとにこれまでの教職や教育実習での経験と理論(原理)を統合させ納得がいった時もいい表情でした。今年度も院生の皆さんと共に学びを深めていきたいと思っています。よろしくお願いします。



教務部副部会長 研究者教員 中妻 雅彦

小学校教員の頃、4月のだれもない教室に入ると、「さあ、今年はどんな子どもが来るのか、どんな実践をしようか」と、気持ちが高まりました。この気分は、多くの子どもたちも同じですが、それが薄い子ども、わからない子どもに気づいた時、教員として一歩成長したと感じました。子どもや保護者、同僚の「困った感」「もやもや感」を感じられる、共感できることが、問題解決の始まりです。そんな教員を目指して院生、教職員が一緒になって頑張っていきましょう。



教務部 研究者教員 三浦 智子

主に、教育経営、教育行政にかかる科目を担当しています。

優れた教育実践の展開や教育課題の改善に向けた様々な取り組みについて院生の皆さんが工夫され、また、そうした取り組みを学校や自治体を超えて広めてゆくことができますよう、精一杯お手伝いをしてまいりたいと存じます。

どうぞよろしくお願いいたします。



総務部副部長 研究者教員 吉田 美穂

学校は社会の中にあり、そして、その社会は多くの課題を抱えながら今日も変化し続けています。そうした広い視野をもって日々の教育活動にあたるのが、ますます求められる時代になってきたと感じています。例えば、貧困などの社会の課題は、困難を抱えた子どもたちの姿として学校現場に現れてきますし、変化し続ける社会の中で子どもたちが自立して生きられるよう、教育の内容や方法にも変化が求められています。社会の視点に立って学校の実践を見る力と、学校から社会に向けて発信する力、それらをともに伸ばすことができる環境が、教職大学院にはあります。院生の方々の豊かな学びを支えられるよう、今年度も努力してまいります。



実習部会 研究者教員 吉原 寛

弘前大学教職大学院もいよいよ2年目がスタートしました。私自身を振り返ると、昨年は何事も初めてのことばかりで、目の前のことをこなすことで精一杯の毎日を過ごしてきたような気がします。今年は少し先を見通せるようになっていくはずですので（怪しいですが）、少し先を見通して仕事ができればと考えています。特に教職大学院では理論と実践の往還が基本理念としてありますので、授業と実習を関連付けた取り組みができるようにしていきたいと思っています。今年度も

どうぞよろしくお願いいたします。



実習部会 研究者教員 福島 裕敏

ライフコース研究において、「コンボイ」という概念があります。それは、「社会的支えが与えられ、受け取られる構造としての個人的ネットワーク」を意味するものです。「教師というアポリア（難問）」を共有し、その乗り越えを共に目指していくコミュニティといってもよいと思います。新たなメンバーを迎えて、教職大学院がそうした「コンボイ」を育み展開していく場となるよう、微力ながら尽力したいと思っています。



入試フォローアップ部会 研究者教員 森本 洋介

新M1のみなさん、ご入学(入院?)おめでとうございます。教育実践開発コースの方は気持ちをあらたに、ミドルリーダー養成コースの方は久しぶりの大学生活を送ることになると思います。特に教育実践開発コースの方は勉強量も実習量も学部とは段違いになると思います。またミドルリーダー養成コースの方は教師とはまた違った視点で学校現場を観ることになると思います。いろいろなプレッシャーもあると思います。いずれの立場にせよ、健康第一で学生生活をお過ごしください。M2のみなさん、2月の年次報告会で修了したような空気になっていましたが、この1年が正念場です。成果報告書作成に向けて気を引き締めていきましょう。



入試フォローアップ副部長 実務家教員 三上 雅生

院生の皆さんに望むことは、この教職大学院わずか2年間の学修の中で「これだけは一生懸命やった」とか「これだけは自信がある」という何かをつかんで修了してもらいたいと思います。そのことが、これからの教職生活の中で必ず血となり肉となるからです。自分自身としては、授業や分掌等において、現状維持ではなく、さらに高みへと innovation を図っていこうと考えています。どうぞ今年度もよろしくお願いいたします。



実習副部長 実務家教員 小寺 弘 幸

「子どもを育てるとのこと」

子どもが、自分の力でがんばってできたという自信から、生きる力をつけるように仕向けていくことが、学校の仕事なのだと思います。学校は子どもたちに様々な課題や困難を用意し、それらを子どもたちが乗り越えていけるように、後ろから押しついたり横から支えたり、時には前からそっと引っ張ったりするのが仕事です。励ましたり、相談にのったり、時に叱ったりしますが、あくまでも子どもたち自身が自らの力で困難を克服したと思えるように、支援しなければなりません。そんな繰り返しを重ねて、生きる力を身につけ、やがて子どもたちは自立していくのです。



入試フォローアップ部会 実務家教員 古川 郁 生

2年目がスタートしました。昨年は教職大学院の立ち上げの1年で、何がどのように進んでいくのか分からないまま、とにかく日々の業務や授業に追われて、先を考えることなく無我夢中で走った1年でした。2年目になって「先が見えるようになったのか」と自分に問い正してみると、やはり今年度も無我夢中で走れないのだと感じています。でもこの「無我夢中で走る」ことが大切だと思います。教育は小手先で誤魔化すのではなく、どんなに力量がなくても、全身を使って精一杯の力で取り組んだ時に成果が上がると言われます。院生とともに教職大学院の新しい歴史を完成させるため頑張ります。



教務部会 実務家教員 敦 川 真 樹

昨年より地域の小学校やこども園などから依頼されて、実際に支援を必要とする子ども、保護者の方々や先生方、保育士の皆さんと接する機会が増え、改めて「地域支援」「教育相談」のニーズを強く感じています。

私の力量では、お話を伺っただけでは全て解決というアドバイスはできませんが、実際に子どもと先生方の関わりを観察したり、直接子どもと関わったりする中で、先生方と一緒に「必要な手立て」を試行錯誤しながら取り組んでいます。

今年も伴走者としての立ち位置を大切に、多くの子どもたちや関係する方々のニーズに応えていきたいと思っています。



実習部会 実務家教員 成 田 頼 昭

昨夜、指導案を作成しました。明日T1を務める授業「教科領域の理論と実践」のためです。どの授業でも展開案を作成していますが、今回は体裁を整え、留意点や評価規準の観点・方法等まで記載し「指導案」として作成しました。本科目は、教育実践開発コース院生対象で教材研究や指導案作成、模擬授業を内容とし、明日は「指導案の作成の仕方」が課題です。準備した資料及び院生作成の指導案を用いて講義・演習を進めた後、まとめの段階で「実は、今日はこの指導案で進めました」と配布し、意図や実際に展開して授業認知・判断・対応がどうだったかを語るつもりです。2年目で担当科目や実習指導が増えていますが、「4つの力」育成のため、青森県の子供たちのために教職大学院の実務家教員として何が出来るか常に問い続けながら今後も精進してまいります。(4/22日記)

平成31年度 教職大学院進学説明会及び試験日

各大学の学部卒業予定者（教員免許状取得者または取得見込み者に限る）に、下記のとおり教職大学院への進学説明会を開催いたします。当日直接弘前大学までお越しいただき、説明会を受講ください。なおホームページでも閲覧出来ます。



進学説明会及び試験日について

	開催日時	場 所	試験日
第1回説明会	平成30年7月25日(水) 16:00より	弘前大学教育学部 1階大教室	9月29日(土)
第2回説明会	平成30年10月24日(水) 16:00より		11月24日(土)
第3回説明会	平成30年12月5日(水) 16:00より		1月26日(土)



平成30年度 教職大学院前期(4月～9月まで)の行事予定

	4月 April	5月 May	6月 June		7月 July	8月 August	9月 September
1	日	火 月曜授業	金	1	日	水	土
2	月	水 金曜授業	土	2	月	木 前期終了	日
3	火 入学式	木	日	3	火 教育実践2年 中間指導①	金 院授業日7・20	月 1年集中講義
4	水 1・2年専攻がイ ダンス	金	月	4	水	土	火 1年集中講義
5	木 専攻がイダンス	土	火 県教委実習	5	木	日	水
6	金	日	水	6	金	月	木
7	土	月	木 ミドル1年附小 実習	7	土	火	金
8	日	火 附属中実習	金	8	日	水 オープンキャンパス懇 談会	土
9	月 前期開始	水	土	9	月	木 ミドル1年学教セ ンター研修	日
10	火	木 高校実習	日	10	火	金	月
11	水	金	月	11	水	土	火
12	木 実習協議会1	土	火 ミドル1年附小 実習	12	木	日	水
13	金	日	水	13	金 授業公開	月	木
14	土	月	木 梵珠実習	14	土	火	金 前期実習終了
15	日	火	金	15	日	水	土
16	月	水	土	16	月	木	日
17	火 教育実践2年 実習開始	木 弘前市教委実 習	日	17	火	金	月
18	水	金	月	18	水	土	火 1年テーマ提出
19	木 附属小実習	土	火 ミドル1年附特 支実習	19	木	日	水
20	金	日	水	20	金 院休講	月 集中実習開始	木
21	土	月	木 ミドル1年附中 実習	21	土	火	金
22	日	火 学教センター実 習	金	22	日	水	土
23	月	水	土	23	月	木	日
24	火 附属特支実習	木 ミドル1年附中 実習	日	24	火 附小公開研	金	月
25	水	金 ミドル2年授業 日	月	25	水 入試説明会1	土	火
26	木 附属幼実習	土	火 ミドル1年関連 事後指導	26	木	日	水 セミ担当決定
27	金 ミドル2年授業日	日	水	27	金 ミドル2年授業 日	月 筑波(4日間)	木
28	土	月	木	28	土	火 筑波学校マネジ メント研修	金
29	日	火 教育実践1年 実習開始	金 ミドル2年授業 日	29	日	水 筑波学校マネジ メント研修	土 院1期入試
30	月	水	土	30	月	木 筑波学校マネジ メント研修	日
31		木 社教センター実 習		31	火 教育実践1年 中間指導①	金	

入学院生からのメッセージ

教育実践開発コース 浦田 夏輝



私は数学が苦手な生徒を一人でも多くなくせるような教員になりたいです。ですが、このまま教員になってそれが実現できるのかと疑問に思い、自分には

まだまだ足りない部分が多いと感じたため教職大学院に入学しました。

私は理学部の出身のため、はじめは授業について行けるか不安でしたが、ミドルリーダー養成コースの先生方の実体験に基づいた意見や同じ志を持った教育実践開発コースの仲間の考え方に今までにない、いい刺激をもらえる機会が多くとても恵まれた環境にいると感じています。

これから授業が本格的に始まり教育実習の機会も多く与えられる中で、自分の課題を明確にして一つ一つ克服して自分の思い描いている理想の教師に一步でも多く近づけるように実りある2年間にしたいと思っています。

教育実践開発コース 久保田 遥



学部3年生の時に掲示板で教職大学院の案内を見て、「なんだこれは！」と衝撃を受け、入学を決意しました。気が付くと入学し早一ヶ月がたとうとしています。右も左も

分からず始まった大学院生活ですが、授業でのミドルリーダー養成コースの先生方とのディスカッションが本当に勉強になることばかりで、毎時間目から鱗がたくさん落ちていきます。私は昨年度教員採用試験を受験しておらず、今年が初めての受験です。授業と試験勉強と、毎日ヒイヒイ言いながらも仲間にも励ましてもらい何とか日々を過ごしています。

想像していたより何倍も忙しく、何百倍も楽しい院生生活。分からないことだらけでご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、優しく見守ってください。2年間よろしくお願いします。

教育実践開発コース 中野 悠



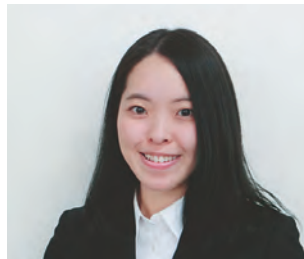
2年前に弘前大学を卒業し、今年からまた勉強させていただくことになりました。周りについていけるか不安はたくさんあるのですが、幸いにも学び直せ

る機会を得たので将来に向けて頑張っていきたいと思っています。

周りを見渡せば、これから一緒に勉強していく素晴らしい仲間や、様々な知識・経験が豊富な先生方がいて、とても恵まれた環境だなと感じています。教職大学院でやるべきことは山のようにたくさんあると思うのですが、まずは自分自身が楽しみながら取り組んでいきたいと思っています。

また仲間と「ああでもない、こうでもない」と積極的にコミュニケーションを図りながら、学んだことの振り返りができればなど考えています。青森県の即戦力を目指して、日々吸収、発信しながら精進します。よろしくお願いします。

教育実践開発コース 山田 なつみ



私は、他大学から弘前大学教職大学院に入学しました。入学して数日経ちましたが、まだわからないことが多く、不安な気持ちでいっぱいです。でも同じ教育実践開発コース院生4名と協力し、助け合いながら頑張りたいと思っています。

「教育」についてこれから始まる授業で、より考えを深めて、視野を広げられるよう努力していきます。

また、教職大学院の教員の方々、教育実践開発コースの先輩方やミドルリーダー養成コースの先生方と関わることが出来るので、この機会を大切にしてください。多くのことを吸収しながら自分自身を成長させていきたいと思っています。

実習では現場の様子を観察することで、今後の自分自身の課題を見つけたいと思います。そして、自分の足りないところを発見したり、自覚して、より教師としての資質を高めていきたいと思っています。

教育実践開発コース 横田 強



私は、教師として必要だと感じる資質が今の自分にはまだ足りないと感じていました。そのため、自分にまだ足りない力を身につけていくために教職大学

院へと入学することを決めました。入学して数週間、やらなければいけないことが多くあり、忙しい日々が続いていますが、自分の成長へとつながる充実した生活であると感じています。ときには同じ教育実践開発コース院生と共に考えを深め合い、ときにはミドルリーダー養成コース院生である現職の先生方から多くの経験や、気付かなかった考えをもらいな



から、多くのことを学んでいきたいと思ひます。子どもたちが主体的に取り組んでいけるような指導ができるという自分の教師像に近づけるように頑張っています。

ミドルリーダー養成コース

稲葉 友輝 (青森市立浪岡北小学校教諭)



昨年度までは、多岐に及ぶ教師の仕事に明け暮れる毎日でした。それでも、同僚の先生方と協働しながら、子どもたちの成長を願い、一步一步子どもと共に

歩んでいく学校生活はとても充実していましたし、満足もしていました。

そのような中、今年度、弘前大学教職大学院で学ぶ機会を得ることができました。一度立ち止まって、教師としての自分を見つめ直し、じっくり学び直す貴重な機会が得られたことに感謝しています。豊富な知識と経験をお持ちの指導教員の先生方が繰り出す授業は、「気づき」と「発見」の連続で、演習中心の授業は話し合う場面が多く、とても刺激的です。これまで経験を頼りに進めてきた教育活動ですが、その根拠となる理論を学び直す絶好の機会です。この貴重な機会を最大限に生かし、大学院で出会うことができた仲間と共に学び、高め合い、教師としての技量を更に高めたいと思っています。そして、現場に戻ったときに、子どもたちや学校組織の中で、その学びをしっかりと還元できるように、一日一日を大切にしながら学びを深めていきたいと思ひます。大学での新たな生活もとても充実しています。

ミドルリーダー養成コース

工藤 由紀 (七戸町立天間林中学校教諭)



仕事に熱心で、頼りがいがあり、同僚への気遣いや職員同士の輪を大切に、生徒や保護者からも信頼が厚い……そんな先輩の先生方に近づきたくて、教職大学院の受験を決意しました。年齢を重ね、経験を重ねるにつれ、少しは近づけているかと思ひていたところでしたが、授業を受けるたびに自分自身の力不足を実感して意気消沈。いろいろな意味で学び続けることの大切さをひしひしと感じています。

その一方で、同級生となった頼もしいミドルリーダー養成コース先生方とエネルギーな教育実践開発コース院生、そして教職大学院教員の先生方との出会いは、すでに私の大きな財産となっており、

学びの原動力ともなっています。

これから2年間、貴重な機会をいただいたことへの感謝の気持ちを忘れず、所属校のみならず、上北・青森県の教育、そしてなんといっても目の前にいる子どもたちに還元できるよう精力的に取り組んでいきます。

ミドルリーダー養成コース

下村 亘 (八戸市立旭ヶ丘小学校教諭)



大学を卒業し、教育の現場に飛び込んでから、早十数年が経ちました。今まで、たくさんの悩みを抱えることもありながら、先輩方のご指導を受け子ども

たちと向き合ってきました。その中で、喜び、感動、失敗、困難、たくさんの経験をしてきました。このたび、その経験・実践と理論を結びつけて振り返ることができる機会をいただいたことは大変にありがたいことです。また、他地区・異校種の先生方や大学からの教育実践開発コースの院生のみなさんと共に学ぶことができることも、教職大学院の大きな魅力の一つです。始まってまだ間もない中でも、たくさん勉強をさせていただき、院生室の会話の中でも刺激を受ける毎日です。自分自身の視野が広がっていていることを感じています。今まで気づかなかった、あるいは見過ごしていたまだ見ぬ世界と触れられることを楽しみに、これから2年間頑張っていきたいと思ひます。

ミドルリーダー養成コース

下山 達彦 (県立弘前実業高校教諭)



バブルは既に弾けていましたが、まだその残り香が漂っていた時代。「しばらくすればまた右肩上がりなるだろう」くらいの甘い認識で過ごしていた私は、

大切な大学の講義を非常に不真面目な態度で受けておりました。「学校教育は子どもたちの未来に対してとてつもなく大きな責任を担っているのだ！」などという教育的情熱を仲間と交わすことなど当時はなかったように思ひます。卒業後青森県の教員として多くの子どもたちと関わる機会をいただき、自分なりに精一杯取り組んでまいりましたが、これまでを振り返ってみますと、その内容は経験則に基づくことが多く、理論が不足していることに気づきます。そして、大学時代の愚かさを反省するのです。

今年度一年、所属校には多大なるご迷惑をおかけ

いたしますが、未来からの留学生である子どもたちのために、仲間と協力しながら、努力を惜みず、現場に役立つ研究を目指して取り組んでまいります。

ミドルリーダー養成コース

神 大 輔 (つがる市立車力小学校教諭)



講義が始まってまだ間もないですが、ミドルリーダー養成コース院生と教育実践開発コース院生の仲間と出会い、共に学び合う中で充実した日々を送ることができています。講義による新しい知識の獲得だけでなく、他者との討議による新たな気づき、これまでの学校での取り組みについての振り返り。学びを助ける側から学ぶ側へ立場が変化したことで、学ぶことの楽しさを実感しています。これから始まる連携協力校や教育関連施設等での実習も、普段積むことができない貴重な経験の場になると思います。

この弘前大学教職大学院で研修したことを、学校現場に戻った際にしっかりと還元できるよう積極的に学び続けていきたいと思えます。

ミドルリーダー養成コース

成 田 綾 子 (県立青森中央高校養護教諭)



教職大学院に入学して10日がたちました。はじめは、あまりの情報の多さに、何がわからないのかがわからず、これからやっていけるのだろうかと思いました。

しかし、不安に浸る暇もなく次々と専門的な講義や演習が続き、自分がいかに知識不足か、論理的な考えができていないか、相手に伝える言葉をもたないかを痛感しています。課題や時間には追われていますが、新しいことを学んだり、多彩な考えを持つ院生の意見を聞くことができる喜びで、ワクワクの毎日です。

これからは、多くのことを吸収しつつ、自分の中に落とし込む時間を持ち、今までの実践と理論をつなげ、相手に納得してもらえるような自分の言葉を持ちたいと思えます。また、養護教諭として、学校全体にどのように関わっていけばいいのかをじっくり考えていきたいと思えます。

ミドルリーダー養成コース

成 田 幸 子 (弘前市立時敏小学校教諭)

教員として日々目の前の子どもたちに精一杯に向き合い、多くの学びを得てきました。しかしながら



授業や特別活動等、学校現場で様々な実践を積み重ねてきてはいるものの、ふと立ち止まって自分自身を見つめてみると、理論不足が今の自分の課題だということに気づき、大きな決断をしてこの教職大学院での学びを選択しました。

教職大学院は、教育現場との忙しさとはまた違う忙しさで戸惑いもありますが、異校種・異教科の先生方と切磋琢磨しながら、学ぶ喜びを味わっているところです。また、教育実践開発コース院生の皆さんの素直な感性に触れては、学ぶ意欲も高めているところです。

大好きな学校と大好きな子どもたちのために、教員としての省察力・協働力・課題探究力・自律的発展力を高め、理論と実践を結びつけられるよう学びを深めたいと思えます。

ミドルリーダー養成コース

三 上 豊 広 (県立弘前第二養護学校教諭)



教職大学院を受験したきっかけは、青森県が直面している教育課題の一つである「インクルーシブ教育の総合的な取り組み」について深く学んでみたいと思ったことです。

私はこれまで、知的障害や視覚障害、肢体不自由を有する特別支援学校で勤務してきましたが、特別支援教育の視点やかかわり方は決して「特別」なことではないと思えます。世界的にいろいろな分野でユニバーサルデザインが取り入れられてきているように、インクルーシブ教育システムがノーマルになる時代に向けて努めていきたいと思えます。

また、現職の先生方や教育開発実践コースの院生たちとの学び合いの中で、さらに広い視野で「教育」を見つめ直すとともに、理論と実践を結びつけながらたくさんのことを学び、実践に生かしたいと思えます。

〈編集・発行〉

弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻
(教職大学院) News Letter 第4号 2018.5.1発行
〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
Tel 0172-36-2111 (代表)

メールアドレス k-daigaku01@hirosaki-u.ac.jp
HP 弘前大学教育学部(教職大学院をクリック)
弘前大学教職大学院 入試フォローアップ部会